

## 28 第2次大戦後の女性の服装についての記述を読み誤っているものを選びなさい。

- (1) パリコレで発表されたサックドレスは筒型のシルエットでサック（袋）のように不恰好なドレスとマスコミに揶揄され不評だったが、日本では着やすさもあって大流行した。
- (2) 若者の間でキューバ生まれのマンボのリズムが熱狂的に支持され、若い男性は細身のマンボズボンを着用した。
- (3) 洋裁を習うには海外に留学しなくてはならず、パリが一番人気であった。
- (4) 戦後の目覚ましい変化はクリスチャンディオールがニュールックに登場したロングスカートが女性の間で流行した。

## 29 1965年のパリコレで人気となったミニスカートが日本にも入ってきて1968年に流行のピークを迎えました。ミニスカートの流行に関係していないものを選びなさい。

- (1) アンドレ・クレーージュ
- (2) コムデギャルソン
- (3) ツィギー
- (4) メアリー・クワント

## 30 1965年頃から流行したアイビールックやコンチネンタルスタイルに関する記述を読み誤っているものを選びなさい。

- (1) アイビールックは、もともと第2次世界大戦後1960年代末期まで流行し、定着したアメリカ東部私立大学のキャンパスファッションである。
- (2) アイビールックやコンチネンタルスタイルは学生運動や反戦活動を行う若者にも支持されていた。
- (3) シルエットが比較的細身で、上着はナチュラルショルダー、3つボタンで細いネクタイにボタンダウンのシャツを着用した。
- (4) 髪型を含めて頭のとっぺんから足のつま先まで1つの調子で統一する総合的なファッションで流行に左右されないスタイルとしてそれを支持する若者に定着していった。

## 31 以下の文章を読み、文章が示している語句を選びなさい。

1958年頃からジーンズが若者の間に大流行した。その背景には長期化するベトナム戦争へ抵抗する若者の姿があった。彼らは既存の制度、慣習、価値観を拒否して脱社会的行動をとる人々のことで、長髪や、破れたジーンズなど当時としては奇抜な服装が特徴である。

- (1) みゆき族
- (2) ヒッピー
- (3) アメトラ
- (4) モッズルック

## 32 以下の文章を読み適した人物を選びなさい。

1977年にはアジア唯一のオートクチュールメンバーとして参加し、日本的な美意識をヨーロッパの伝統から生まれた洋服に見事に融合させて「東洋と西洋の出会い」と評されていた。

- (1) 川久保玲
- (2) 三宅一生
- (3) 森英恵
- (4) コシノジュンコ

## 33 OO族というファッションはストリートファッションと呼ばれて一般のファッションと区別されています。以下の記述の中からストリートファッションの特徴に合わないものを選びなさい。

- (1) 一年以上流行が続くもの
- (2) 奇抜なデザインが多いこと
- (3) 彼らが自分たちで作り出したものであること
- (4) ごく一部の限られた若者に見られること

## 34 1960年～1970年代の若者の間では様々なファッションが生まれました。以下の記述を読み誤っているものを選びなさい。

- (1) アイビールックはアメリカの私立大学のキャンパスファッションで、流行に左右されないスタイルとしてそれを支持する若者を中心に定着していった。
- (2) 雑誌『an・an』や『non-no』から生まれたファッションをアンノンファッションと呼び雑誌のスタイリストによって選ばれたコーディネートを読者に紹介するスタイルである。
- (3) 当初、大方の評論家やデザイナーたちは流行の可能性はないと見ていたミニスカートが世代を超えて受け入れられていった。
- (4) 商品開発から店頭展開までを、早く短いサイクルで回すファストファッションも急成長し若者に支持されている。

## 35 1980年代に流行したファッションに関する記述を読み誤っているものを選びなさい。

- (1) バブル経済のもと、海外の高級ブランドが日本に参入し日本のブランド志向に拍車をかけた。
- (2) 社会からドロップアウトし、長髪や破れたジーンズなど奇抜な格好を好む若者をヒッピーと呼んだ。
- (3) 山本耀司、川久保玲のデザインが「黒の衝撃」とパリのマスコミに取り上げられ、日本ではこれをコピーしたファッションが生まれ、カラス族という言葉が生まれた。
- (4) ワンレンボディコンといわれたファッションが流行。ボディラインを意識し細く絞ったウエストのミニスタイルにワンレングスを合わせた。